



2021年11月18日

各 位

会社名 株式会社アイシン
代表者名 取締役社長 吉田 守孝
(コード：7259、東・名証第1部)
問合せ先 総合企画部長 近藤 大介
(TEL. 0566-24-8204)

アイシン、ESG 説明会を初開催 ーカーボンニュートラル社会の実現に向けた投資計画を発表ー

株式会社アイシン（本社：愛知県刈谷市、社長：吉田 守孝）は、本日、ステークホルダーの皆様との対話を深め、ESG（環境・社会・企業統治）に対する当社の取り組みを理解していただくことを目的として、「ESG説明会」を初めて開催しました。

アイシンは「”移動”に感動を、未来に笑顔を。」を経営理念に掲げ、社会課題解決に向けた取り組みを推進しています。特に喫緊の課題であるカーボンニュートラルについては、製造業であるアイシンにとって重要なテーマであり、クルマの走行時のCO₂排出だけではなく、製品ライフサイクル全体の視点で取り組んでいます。本説明会では、お客様へ提供する「製品」、自社での「生産」両軸でのカーボンニュートラルへの道筋と投資計画を発表しました。

1. 製品軸の取り組み

- ・電動化ユニット、熱マネジメントや回生協調ブレーキ、車体製品など、これまで培ってきた幅広い製品・技術による車両全体のエネルギーの効率化に取り組み、2025年に電動車両のトータル電費を10%以上向上。
- ・パワートレインにおいては、部品メーカーとして唯一 HEV、PHEV、BEV、FCEV 向けの電動ユニットを「フルラインアップ」で揃えており、様々な地域やニーズに適した製品を提供できることが強み。
- ・特に競争の激化する eAxle については、2025年を目処に 小型・高効率を強みとする製品を全車格向けに品揃えを拡充。
- ・2025年には電動化ユニット 450万基の生産体制を構築。

2. 生産軸の取り組み

- ・2030年生産CO₂排出量50%削減に向け、「動力源・熱源・無駄レス化」、「発電・燃焼」、「CO₂再利用」、「エネルギーマネジメント」の4つのテーマで取り組みを加速。
- ・パワートレインユニット生産の主要工程のひとつである溶解炉においてCO₂排出量を低減する新技術を導入し、排出量を2030年までに80%削減。
- ・新型太陽光発電技術の自社開発により再生可能エネルギー使用率を高め、2030年にはグローバル全拠点における太陽光発電での再エネ率を7%以上に。

3. 投資計画

- ・製品軸では、2025年には電動化ユニットおよび回生協調ブレーキの生産体制を日本のみならず米国・中国をはじめとするグローバルで構築。今後 5年間で累計2,700億円の投資を計画。
- ・生産軸では、2030年生産CO₂排出量50%削減を確実に達成するために、今後 10年間で累計1,100億円の投資を計画。

アイシンは、「製品」・「生産」両軸でこれまで培ってきた自社の強みを生かしながら、さらに技術を磨いていくことで、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

以 上

■ ESG説明会の関連資料は下記のリンクよりダウンロードいただけます。

<https://www.aisin.com/jp/investors/>